



千葉大学医学部同窓会報

第105号

題字 鈴木五郎

編集発行者

千葉大学医学部

るのほな同窓会報編集部

〒260 千葉市中央区玄鼻1-8-1

千葉大学医学部内

るのほな同窓会

電話 (043) 222-7171内線5026

教授就任の挨拶

千葉大学医学部附属病院放射線部

北原 宏(昭43卒)



平成6年4月1日付で、医学部付属病院放射線部教授・部長併任の辞令をいただきました。卒業後、形態と機能の外科である整形外科を選びましたが、これは画像診断なくしては語れない分野であります。その診断、評価、治療に放射線学的アプローチの必要性を十分理解して参りました。

正しい診断を下せる意味ある画像、良い治療結果を得るための画像、結果を評価する画像の重要性和魅力をずっと考えつづけてまいりました。技術的にはいうに及ばず、画像診断機器の開発・進歩、造影剤の開発を含め、画像診断は形態診断のみに止まらず、機能的診断・機能的評価が下せるまでに進歩し、同時に治療分野への参入も目覚ましいものがあり、これから時々刻々目を見張る発展をとげると思われまふ。中央診療部門



香川医科大学外科学講座形成外科学

秦 維 郎(昭42卒)

この度、平成5年8月16日付けで香川医科大学、外科学講座形成外科学の教授を拝命

致しました。母校千葉大学を離れ、既に25年の歳月が過ぎますが、ここに一言ご挨拶申し上げます。香川医科大学は、一県一医大構想のもとに昭和53年10月、最後の国立医科大学として設置され、附属病院はその5年後に開院し、今年で11年目を迎えます。私は千葉大学医学部を昭和42年に卒業し、東京女子医大・一般外

科で外科研修を受けたのち、東京警察病院において故大森清一先生に形成外科を13年間にわたって師事致しました。その後、昭和58年4月、香川医大初代学長・故砂田輝武先生のご努力で、香川医大に形成外科が全国国立大学に先がけて開講した時、大森先生のご推挙で、主任助教授として赴任致しました。

以後10年間、この新設された香川医大で、教育、診療、研究に従事し、ここに関係各位のご支援で、教授職設置に伴い、教授に昇格、就任した

科で外科研修を受けたのち、東京警察病院において故大森清一先生に形成外科を13年間にわたって師事致しました。その後、昭和58年4月、香川医大初代学長・故砂田輝武先生のご努力で、香川医大に形成外科が全国国立大学に先がけて開講した時、大森先生の

「千葉大学医学部同窓会名簿(平成五年版)」

新名簿(定価は送料込みで三千元)ができております。

購入ご希望の方は、同窓会事務室(内線五〇二六)にお申し込み下さい。

今年度の四金会の開催

日時 平成6年4月27日、11月23日、平成7年2月23日

いずれも(午後5時30分より)

場所 千葉大学医学部同窓会館

るのほな同窓会総会のお知らせ

今年度のるのほな同窓会総会を左記により開催致します。今回は、東京るのほな会担当で役員会を兼ねて行います。同封の葉書にて出欠の返事をお送り下さいますようお願い申し上げます(六月二十日必着)。

一、日時 平成六年六月二十五日(土)

午後一時三十分より

一、場所 ホテルオークラ本館松風の間

(東京都港区虎の門二丁目一〇番四号) 電話〇三―三三八二―〇一一(代)

一、総会次第

(1) 会務報告

(2) 議 事

① 役員改選について

② 会則改正について

③ 平成五年度決算および平成六年度予算案について

④ 会費について

⑤ 学術奨励費について

⑥ その他

(3) 報告事項

一、懇親会 午後三時より五時

会費一五、〇〇〇円

(当日受付にて申し受けます)

次第であります。形成外科は身体外表面の先天異常や外傷、腫瘍等の後天性疾患によ

って生じた欠損、変形を正常に、あるいは美しくし、個人

を社会に適合させる全人的医療の一端を担うものとして理

解され、今後、益々社会的ニーズも増加して来るものと予想

されます。この状況下で、香

川医大と同様、母校千葉大学

にも一瀬教授のもと、形成外

科が発足したことは大変慶ば

しいことと思ひます。形成外

科の独立は外科手術の適応範

囲を拡大、外科系各科に多大

な福音をもたらすものと考え

ます。四国香川ではるのほな

同窓生も少なく、母校と疎遠

になりがちで、唯一のほな

会報をニュース源としてある

今日この頃です。これを機に、

陰ながらご支援下さったるの

ほな同窓生諸氏に厚くお礼を

申し上げますとともに、千葉大

学の益々の発展をお祈り致し

ます。

退官記念式典開かれる

平成六年三月で定年により千葉大学医学部の教壇を去られた有水昇教授(放射線医学)、金子敏郎教授(耳鼻咽喉科学)、水口公信教授(麻酔学)および林豊教授(附属肺病理解剖門)に対する記念式典、記念講演会および記念祝賀会が、三月十二日午後二時より、千葉大学医学部附属病院第一講堂において行われた。記念式典では、近藤洋一郎医学部長のご挨拶のあと、吉田亮学長、小林龍男名誉教授代表、名尾良憲同窓会長、渡辺勲放射線医学同門代表、中川眞五郎耳鼻咽喉科学同門代表、伊東和人麻酔学同門代表、福岡誠吾肺病研究施設同門代表からそれぞれ祝辞があ



昇教授
有水田英美助教より
述べられた。記念品贈呈、花束贈呈の後、退官される

四名の先生がご挨拶された。ついで、記念講演が、加藤尚武先生(千葉大学文学部

教授)により、「環境倫理における現代文明」と題し、行われた。記念式典につき、祝賀会が附属病院第三講堂で行われ、当日の記念事業は、滞りなく終了した。



水口公信教授

より五月二十二日まで開催した。同氏の既刊の「巨海音聲1・2」の力作のうちの二十点が展示され、同作品は同館に永久保存されることになっている。



林 豊教授

ICPにて写真展

岩瀬秀一氏(昭35卒・写真部OB)は、外房の海の写真展(VIEWS of Japan)を、ベトナム戦争で死亡したライフ記者ロバート・キャバの弟コーネル・キャバが創設したニューヨークの国際写真美術館(International Center of Photography)にて四月八日



「回想の堂野前維摩郷先生」の出版について

このたび、千葉大学第二内科で堂野前維摩郷先生の教えをうけた三十三名が標題の回

想記をまとめた。昭和十一年卒から二十一年卒までの方々で、稲田武夫、名尾良憲、長尾透、山上健次郎その他なつかしい先生方のお名前がならぶ。

渡辺昌平先生が企画、編集等のすべてを背負われ、読み易い130頁ばかりのすっきりした本ができた。この回想記を読んで、あらためて堂野前維摩郷教授の人間として、学者として、そして臨床医としての偉さ、風格、そして魅力を感じする。太平洋戦争が終り、続々と先生のもとにもどってきたこの人々が、熱いおもいで内科学を、そして医療の本質を学んでいる姿が、頁の隅々にあふれている、そういう本である。

(永井友二郎・昭16卒・記)

人事異動

千葉大学

教授昇任

北原 宏(昭43)

附属病院放射線部(整形外科科学助教教授より)

助教昇任

河原 克雅(東北大昭55)

生理学第二(同講師より)

講師昇任(千葉大学)

秋田 徹(昭51)

附属病院整形外科(同助手より)

沼田 勉(昭54)

耳鼻咽喉科学(同助手より)

北 耕平(横浜市大昭52)

神経内科学(国立療養所千葉東病院神経内科医長より)

下山 一郎(昭48)

生理学第一(浜松医科大学神経外科講師より)

丹沢 秀樹(昭57)

齒科口腔外科科学(同助手より)

増田 政久(昭50)

附属病院第一外科(同助手より)

千葉県職員

千葉県は、4月1日付で発令する県職員人事異動を発表した。本学出身者の転任・昇任・新任は次の通り。

保健所長

西村 明(昭33)佐倉(茂原より)

安藤由記男(昭40)柏(佐倉より)

こども病院

佐藤真理(昭47)精神科部長

中村 明(昭48)小児科主任医

がんセンター

石井 猛(昭56)整形外科医長(国立がんセンター東病院より)

岩井直路(昭57)肺外医長(肺外科より)

後藤茂正(昭58)血液化学科医

一般県立病院

添田耕司(昭49)東金病院外科

伊勢 博(昭51)佐原病院脳外

山崎一馬(昭51)〃病理検査

千葉県医師会

新役員

村山博和(昭55)鶴舞病院心臓血管外科部長(医長より)

平成6年3月13日(日)に行われた千葉県医師会代議員会に於て、県医師会現会長渡辺武氏は、無競争で4選された。副会長、理事等は次の通りで、各氏の活躍が期待されている。(〇の数字は選任回数を示す。最下段は地区医師会名。)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----|-----|
| 会長 | 渡辺 武(昭27) | ④ | 船橋 |
| 副会長 | 大藤正雄(昭29) | ② | 大学 |
| 理事 | 松石久義(昭33) | ② | 千葉 |
| 三枝一雄(昭32) | ① | 君津 | |
| 吉井 功(昭34) | ⑤ | 千葉 | |
| 遠藤幸雄(昭34) | ④ | 船橋 | |
| 横山健郎(昭36) | ② | 国立 | |
| 栗原伸夫(昭38) | ④ | 習志野 | |
| 木下 昌(昭38) | ① | 千葉 | |
| 監事 | 国井光智(昭21) | ④ | 市川 |
| 裁定委員 | 岩立健斉(昭15) | ② | 佐原 |
| 佐野 隆(昭20) | ① | 君津 | |
| 加瀬幸雄(昭22) | ④ | 旭 | |
| 中野清幸(昭27) | ③ | 千葉 | |
| 渡辺 勲(昭27) | ③ | 千葉 | |
| 日本医師会代議員 | 川村純一(昭25) | ③ | 八千場 |
| 渡辺 武(昭27) | ④ | 船橋 | |
| 松石久義(昭33) | ② | 千葉 | |
| 藤森宗徳(昭37) | ③ | 千葉 | |

国立公立病院

勤務医師名簿

国立公立病院を中心に各病院に勤務するものは、同窓会員の氏名を掲載しております。

未掲載の病院は、昇任者・転任者の名簿を、同窓会事務室宛にお知らせ下さい。送付されたものは順次掲載します。
(数字は卒業年)

国立横浜東病院

院長 高野 昇(昭31) 産婦
副院長 三木 亮(昭38) 内科
医 長 五月女直樹(昭49) 内
雨宮邦彦(昭51) 外科
北 和彦(昭59) 内科
川副泰隆(昭59) 小児
豊原益隆(昭58) 整外
上杉健哲(昭55) 産婦
天野勝弘(昭41) 外科
十川康弘(昭55) 外科

千葉市立海浜病院

院長 村上 和(昭32) 心外
副院長 加藤喜市(昭36) 産婦
診療局長 鍋嶋誠也(昭47) 外科
部長 佐藤裕子(昭46) 眼科
村木 登(昭47) 内科
河西十九三(昭47) 婦
上村重明(昭48) 心外
広瀬 彰(昭48) 整外
黒崎知道(昭51) 小児
宇津木誠(昭51) 麻酔
太枝良夫(昭53) 外科
田沢 浩(昭48) 内科
菊池典雄(昭49) 内科
木村道雄(昭50) 内科

副部長
田沢 浩(昭48) 内科
菊池典雄(昭49) 内科
木村道雄(昭50) 内科

科 長 山田善重(昭52) 内科
久保田浩一(昭52) 婦
嶋田敬子(昭54) 耳鼻

国立療養所千葉東病院

院長 庵原昭一(昭31) 外科
副院長 大塚嘉則(昭39) 整外
医 長 山岸文雄(昭50) 呼内
鈴木公典(昭53) 呼内
東郷七百城(昭33) 外
佐藤展将(昭48) 呼外
山川久美(昭53) 呼外
中田好則(昭55) 整外

千葉市立病院

院長 河目高介(昭27) 内科
副院長 平井 昭(昭38) 内科
診療局長 山下武廣(昭44) 整外
部長 三上恵只(昭49) 内科
橋川征夫(昭45) 外科
杉本和夫(昭46) 小児
今井克己(昭52) 整外
武田祥子(昭36) 産婦
武石恭一(昭51) 精神
三枝陸朗(昭48) 麻酔
遠山敬介(昭45) 伝染

副部長
千見寺徹(昭48) 外科
大川玲子(昭47) 産婦
岩崎秀昭(昭51) 産婦
主任医長 小関秀旭(昭54) 内科
医 長 中村 貢(昭59) 内科
橋川嘉夫(昭60) 内科
石井昭広(昭63) 内科
安藤克彦(昭60) 外科
井上高志(昭58) 整外
江畑龍樹(昭62) 整外
野田慎吾(昭62) 精神
関 直人(昭3) 内科
清宮晃一(昭4) 内科
野本千恵(昭1) 産婦

医 師
野本千恵(昭1) 産婦

科 長 平野純子(昭4) 外科
根津桜子(昭3) 小児
石和田稔彦(昭2) 児

埼玉県厚生連

院長 熊谷総合病院
副院長 佐藤正義(昭31) 内科
医 長 三好弘文(昭40) 外科
板木亮太郎(昭40) 児
白石真人(昭41) 産婦
角田洋三(昭44) 外科
竹内英世(昭46) 麻酔
吉田良平(昭49) 内科
石井信行(昭58) 放射
中津裕臣(昭59) 泌尿
西山秀木(昭54) 整外
高柳健志(昭2) 理学

埼玉県厚生連

院長 幸手総合病院
副院長 吉川廣和(昭40) 外科
医 長 漆原昌人(昭40) 内科
妹尾素淵(昭40) 泌尿
齊藤弘司(昭43) 外科
渡辺恒家(昭54) 内科

部長 諏訪敏一(昭43) 外科
門山周文(昭51) 呼外

深谷赤十字病院

院長 奈良林定昭(昭25) 皮膚
部長 田口 勝(昭34) 外科
足立英雄(昭43) 外科
宮原弘次(昭45) 外科
島上 実(昭52) 精神
椎原秀茂(昭52) 精神
松村 勉(昭51) 泌尿
北川道隆(昭50) 眼科
四元 循(昭52) 放射

副部長 山下純男(昭58) 外科
鈴木裕之(昭58) 外科

埼玉県立

院長 松本 生(昭36) 小児

国立精神・神経センター

院長 荒川直人(昭29) 精神
部長 齊藤利隆(昭36) 循環
清水順三郎(昭34) 精神
北村 温(昭38) 泌尿
大木健資(昭40) 整外
熊田正義(昭38) 精神
田中 眞(昭49) 内科
山崎廣子(昭51) 眼科
林 謙二(昭50) 整外
齊藤万比古(昭50) 精神
塚田和美(昭52) 精神
松原公護(昭54) 精神
富山三雄(昭58) 精神
小石川比良来(昭59) 精神
高橋 弦(昭59) 精神
岸 雅子(昭59) 循環
獅子原薫子(昭4) 循環

医 員
富山三雄(昭58) 精神
小石川比良来(昭59) 精神
高橋 弦(昭59) 精神
岸 雅子(昭59) 循環
獅子原薫子(昭4) 循環

クラス会(昭48卒)

昭和42年に本学に入塾、あ
るいは48年に卒業した者が卒
後20周年のクラス会をロイヤ
ルプラザホテルで平成5年11
月20日に開催致しました。参
加者は40名で、来賓として吉
田 亮学長、近藤洋一郎医学
部長、また、私達が学生時代

から現職教授であられた橘
正道教授と永野俊雄教授にこ
臨席頂きました。

来賓の先生方の思い出話や
心暖まるはげましのお言葉に
ついて卒後20年間に失った
江頭泰平君の冥福を祈り、黙
祷をささげました。その後酒
宴に入り、君塚五郎君の名司
会のもと出席者全員が五分間
程のスピーチを行い、笑いや
拍手のうちに3時間という時
間があつたという間に過ぎてし
まいました。

出席者のスピーチの内容を
総合しますと外科系にすん
だ人達からは目が悪くなった
点(老眼)が強調され、また全
体として髪の毛の少なくなった
事や、白髪が多くなった点
など共通の関心事であったよ
うです。その中でも大変ユニ
ークであったのは服部義博
君のようにロケットマリッジ
の後援会の会長として余暇を
大いにエンジョイしている人
から、横山淳一君のように糖
尿病の食事療法の本を書くう
ちに、みずから料理人もど
きになってしまった人までい
ろいろバラエティーに富んで
いました。

参加者の7割は千葉在住者
であり関東以外の在住者とし
て参加したのは山形から灘岡
寿英君一人でした。これは私
達の世代が医療の中堅として
多忙をきわめているためだと
思います。また私達の世代は
そろそろ社会機構の上から残



りの人生の進路の決定をせま
られる時期にきております。
そのためかクラス会の始まり
の頃には各人の表情にも硬い
ものがありました。が、会がす
すむうちに、学生時代のような
なくもりのない笑顔がいたる
ところで見られるようになって
きたのは印象的でした。改
めて学生時代の同級生という
のはかけがえのない存在であ
ることが再認識されました。
次回のクラス会が高安賢一君
を中心として5年後(25周年)
に、出来るだけ多く集まれる
ということを考えて東京で行
うことを約して2次会へと散
会しました。(徳久剛史 記)

平成5年度
27
会



藤田龍五郎(大阪)、原恒男(木曾)両君の挨拶から、各自の状況報告があった。一次会終了後、館内の青嵐を借切つて二次会。女学生の会のように皆よく喋った。

翌日は、紅葉に誘われ出た人の波のため、当初予定の観光を中止し、彫刻の森美術館を見学して流れ解散となった。

来年度は、塩田昭夫君の幹事で金沢で開催の予定である。(黄田照光記)

平成五年度 卒業生進路決る

〔衛生〕諏訪園靖、〔一内〕秋池太郎、奥川忠博、門野源一郎、倉田秀一、佐野弘、塚原常道、広瀬 徹、森居真史、〔二内〕石塚保弘、鈴木浩太郎、竹田治代、福田勝之、古瀬陽子、星本相浩、森田秀和、〔三内〕小高謙一、木ノ下敬彦、栗山根廣、香西由美子、鈴木 将、松戸裕治、桜田秀樹、〔呼内〕天野慎也、白井拓史、玉置正勝、大門雅夫、平野 聡、吉田 元、吉田泰司、〔放射線〕植田琢也、宇木章喜、〔精神〕粕谷 乾、陳 裕仁、宮城島大、〔小児〕白石佳純、染谷知宏、〔皮膚〕松浦千華、〔外〕笠川隆玄、黒岩教和、黒沢 永、黄舜範、中野秀幸、西村克樹、〔二外〕鶴飼伸一、河野世章、指山浩志、外浦 功、渡辺良之、〔肺外〕小谷俊明、〔整外〕

青木保親、大島精司、高森尉之、田原正道、丸田哲朗、〔産婦〕碓井宏和、〔眼〕佐々木幸三、長谷川規子、濱口琢也、水島川俊夫、湯浅昌行、〔耳〕大野一人、三枝紀子、笹村佳美、宗 永元、長 哲、宮本佳明、〔泌尿器〕鈴木澄恵、箕輪勝行、〔麻酔〕加藤百合子、〔神内〕赤羽千穂、加藤直子、吉川由利子、藤井隆之、〔小児〕齋藤 武、〔形外〕清水サヲ、谷 洋子、〔救急〕正田 聡、〔他大学・病院〕網代洋一(女医大循環内)、伊藤みりえ(静岡済生会)、浦野友彦(多摩老医セ内)、大塚秀美(名古屋南生協)、大沼 仁(東京通信内)、柏戸孝一(旭中央内)、加治木秀隆(旭中央内)、吳 成浩(名古屋協立総合)、橘 公一(阪大・二内)、長澤和弘(東大眼)、永淵弘之(神奈川こども医療セ)、西平隆一(済生会横浜南部)、堀川啓介(東大医科研)、町野達也(女医大二内)、松尾幸治(東大精神)、水野まゆみ(東大放射線)、進路未定)関口麻理子、石原正治、大谷進弥、越智祥太、篠原 浩、寺本 靖

高木啓輔、杉山晴俊、椎名明大、椎木創一、森谷純治、鶴岡信栄、可知芳則、小野健一、〔巢鴨〕小林 誠、久我明司、〔桜蔭〕大内美香、山田千寿、高梨さやか、中山容子、葛西宏美、橋本美保、〔戸山〕松岡角英、藤尾純子、〔東京学芸大附属〕西山香織、山田伸子、加賀谷暁子、神林桃子、西村麻衣、〔両国〕土岐朋子、須賀ひとみ、蔵持大介、〔東葛飾〕西 泰之、幸部吉郎、飯田真紀、〔栄光学園〕間宮俊太、本城 聡、〔女子学院〕落合里衣、〔麻布〕栃木直文、古田俊介、角田俊治、小林豊、〔桐蔭学園〕武之内史子、植山太郎、藤田幸代、藤田純一、上谷実礼、尾形かおり、〔難〕藤巻茂謙、丸山拓人、〔慶応女子〕門脇正美、遠藤真美子、松尾陽子、〔大分雄城台〕浅野由美、〔水戸第二〕向井葉子、下山立志、〔滝川〕楨田智生、〔稲毛〕永吉 優、〔土浦第二〕川辺純子、〔お茶の水女子大附属〕荒川志保、〔富士〕松永晃直、〔宇都宮〕北林宏之、〔松本深志〕巢山貴仁、〔船橋(県立)〕宮内正樹、〔甲陵〕土地岳彦、〔桐朋〕小丸 淳、〔桐朋女子〕川人末朋、〔東海〕鈴木登士彦、〔高田〕吉永容子、〔西〕赤星拓、〔慶応志木〕石川雅智、〔杉並〕管根 衛、〔熊谷〕吉橋学、〔日比谷〕上山奈緒子、〔武蔵(私立)〕浅香琢也、〔武蔵(都立)〕笠谷知二、〔佐倉〕

〔千葉〕石沢武彰、角田慎輔、篠浦 央、星野 晋、石原陽子、〔筑波大附属〕矢田扶友美、山田義人、小川直美、杉田由美、中田光政、〔開成〕

太和田勝之、〔土浦第一〕深沢 賢、〔神戸女学院高等学〕部)田中優子、〔愛光〕長谷部晋士、〔城東高〕前田誠造、〔木更津〕秋元武之、〔岡山〕一宮)三宅知子、〔浦和高〕寺山修史、〔修道〕田村 敦、〔諏訪清陵〕堀田正二、〔昭和学院秀英〕成本壮一、〔浅野〕嶋謙一郎、〔芝〕岡田将、〔横浜翠嵐〕齋藤奈穂子、〔長生〕早野康一、〔ラ・サール〕山崎 武、〔神戸〕三宅あかり、〔鶴丸〕立石順久、〔立教〕松澤大輔、〔札幌南〕江成太志

平成六年度大学院 医学研究科入学者名

〔解〕サルマ・ベガム、マハメッド・サエード、〔解〕白田岩男、〔生化〕岡村淳、〔薬理〕渡辺泰秀、〔分子生体機能〕行定英明、單麗華、柴崎忠雄、〔分子医〕王長征、〔病〕中村祐之、〔微二〕神谷重樹、松浦大輔、〔分子遺伝〕西城 薫、〔遺伝生〕物〕小林弘一、〔衛生〕諏訪園靖、桜田伊知郎、〔内〕本多 新、安西尚彦、甲嶋洋平、藤原慶一、鶴樺 実、丸山紀史、岡部真一郎、木村雅樹、佐藤悟郎、板井雄三、〔内二〕葛西正明、石井昭広、佐藤 宏、田中 徹、田村 憲、豊田充孝、村田秀行、勝野達郎、野口義彦、八木さやか、西川和男、中世古知昭、桑原憲一、趙 龍桓、渡辺紀彦、

〔内三〕鶴沢秀徳、船橋伸禎、中里 毅、高野博之、〔肺内〕八木毅典、杉戸一寿、〔神内〕河田政之、〔放射線〕荒瀬佳子、〔精神〕武田直己、渡辺博幸、〔小児〕菊岡修一、中村 聡、〔皮膚〕三枝正明、〔外一〕矢形 寛、山口聖一、吉富秀幸、林 永規、〔外二〕吉田武彦、白鳥 享、青木泰斗、金子健太郎、〔整外〕山口 潔、土田隆政、〔産婦〕飯塚美徳、田中宏一、〔眼〕川名浩一郎、川端秀仁、〔耳鼻〕鈴木一雅、中澤 健、鈴木 晋、〔泌尿〕植田 健、小宮 頭、川名庸子、〔歯口〕斉藤佳明、渡辺哲広、〔脳外〕大賀 優

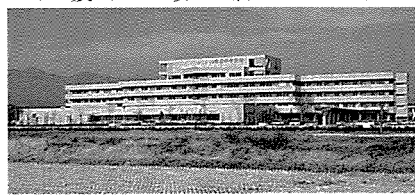
第88回医師国家 試験行なわれる

本年は3月19・20日に行われ、4月22日に合格発表があり、七九四二名の新医師が誕生した。本学からは一九七名が受験し、合格者は一〇七名で、合格率は八十八・八％であった。なお全国平均は八十六・二％、国立大学の平均は八十八・四％であった。

「千葉大学医学部八十五年史」
「千葉大学医学部百年記念誌」
残部がありますので、希望者には進呈いたします。詳しくは同窓会事務室までお問い合わせ下さい。

栃木県厚生連塩谷総合病院便り

病院長 瀧澤 弘隆 (昭40卒)



早いもので当院へ赴任してから十一年が経過しました。昭和五十八年に茂又眞佑前院長の後を継ぎ、それまで常勤医師総勢十一名の陣容での診療は誠に大変だったろうと、その御苦労が忍ばれました。夜間診療が十分に出来ない病院は地域から信頼されない、時間外診療の強化を直ちに着手すべき命題として受け止め、医師十四名の体制で救急医療体制の整備に着手しました。職員一同の協力を得て改善策を推進した結果、二年後には時間外患者数が約二倍になり、医師総数が十七名に増員になった昭和六十年から六十二年度に掛けては同患者数が約四倍に増加しました。それに比例して平常時間内の受診患者数が目覚ましく増加し現有施設及び設備では診療能力が不十分な状態になり、CJなどの高額医療機器の導入を図りましたが、設置場所の選定に苦勞し導入実現までに三年半の年月を要しました。そのためそれ以上の診療能力の向上には病院建築そのものの改善が必要である事が

痛感され、以後の移転・新築への大きな原動力になりました。新病院の設計に当たっては、来るべき二十一世紀を展望し「快適」で「高機能」な総合病院として地域住民の「信頼」と「誇り」のシンボルになるような病院にする事を最大目標として掲げました。そして基本構想の企画から用地取得、設計、施工までの過程で数々の良き助言者や支援協力者に、次いで良き設計者及び施工者に恵まれた事は大変な幸運でありました。

新病院は、広大な敷地の中に、アメニティを重視してゆったりとした広い空間を確保し、個室率を四十％に高め、各フロアー南北に広いディスプレイ・食堂と小型のラウンジを造り、建物内外の色彩も快い洗練された色調を選びました。また、各フロアー毎の浴室に加えて、最上階の五階に矢板市から供給される温泉を利用する展望大浴場と特殊

浴室を設けました。診療科は、既存の診療科の強化を図ると共に、耳鼻咽喉科、脳神経外科、泌尿器科、麻酔科を新設して総合病院としての機能が十分に発揮できるようにし、手術室は無菌手術室一室を含む五室としました。医療機器は、MR、CR、心血管造影撮影装置、体外衝撃波結石破砕装置、B(準備中)などの高額医療機器を積極的に取り入れ、これらの装置の一部は地域医師会と共同利用を行っております。

新病院の運営システムは患者中心の発想で、待ち時間短縮による患者サービス向上を図るため、平成二年から内科で実施して来た再来予約制を踏襲し、カルテ管理は中央管理方式にして、外来検査成績を各科が共有できるようにしました。自動再診受付機とシングルピッカーの導入により大幅な自動化と効率化が達成されました。その他、各部署の業務見直しと合理化を推進し、看護婦の業務負担を軽減するため医局、薬局、看護科の三者の合議の上で、点滴混注作業の大部分を薬局の分担とする「個人セット方式」を採用し、混注薬剤選択誤誤の防止と深夜夜勤看護業務の軽減に役立っています。

このような数々の新機構を盛り込んだ新病院を、奇しくも創立五十周年に当たる平成四年十一月二日(月)に移転・開院しましたが、先ずは全病棟三百床のうち二百床を開棟して臨み、その後平成五年四月に五十床を、更に本年四月に残り五十床を開棟してフルオープンに漕ぎ着けました。その間、昨年七月に院内に栃木県厚生連糖尿病センターを開設して、自治医科大学内分秘代謝科教授葛谷健先生をお迎えし、当院や塩谷郡市のみならず、広く県内の糖尿病診療及び予防に役立てるよう、に緊密な病棟連携及び病診連携の構築等を図っています。

また、開校以来二十八年間にわたって五百余名の人材を世に送りだして来た付属看護婦学校を本年三月に閉校し、かねて病院敷地内に建設中であつた栃木県厚生連塩谷看護専門学校を本年四月から発足させる運びとなり、看護婦二年課程に新入生四十二名を迎えて去る四月八日に開校入学式を挙行了しました。本校は准看護婦を看護婦に養成する進学施設ですが、次の段階において、高校卒業者を直接看護婦に養成する看護婦三年課程にスムーズに移行できるように、教室を余分に増設してあります。

今後の課題として重要と思われるのは、救急医療体制の一層の整備(第三次を目指す)と老人医療の問題であり、救急医療に関しては市当局が検討しており、老人医療に関しては旧病院の地続きにあった特別養護老人ホーム「八汐苑」の敷地内への移設や増設などが考えられ、近い将来にまた新たな展開を迎えることを期待しています。何れにせよ、病院運営の根幹は優秀なマンパワーの確保に尽きますので、今後とも我が母校の御鞭撻と御支援に期待するところ誠に大なるものがあります。

安房のはな会

平成6年3月2日(水)、呼吸器内科、栗山喬之教授をお迎えし、館山市ホテル海幸苑で開催されました。出席者はゲストを加えて15名、往時に比べて会員数が減少しているとは云え、安房医師会ではいずれも中心的存在です。安房医師会は、安房医師会病院を経営し、大々的な検診事業を行っており、いずれも千葉大学との関係が強く、私達のはな同窓会々員は、医師会と千葉大学との重要なパイプ役を果しております。

総会では、野原安会長の挨拶に続き収支報告、続いて栗山教授の御講演が行われました。ネパールでの高所低酸素



下の人体の適応に関する調査研究について、目を見張るようなヒマラヤの風景と、高地での興味深い生活など美しいスライドに、一同我を忘れて見惚れました。母校の近況報告は、スライドで判り易くお

話しされ、最近の学内事情がよく理解出来ました。出席者名()は卒業昭和年
前列左より貴家昭而(30)、本位田泰介(28)、山田教和(医師会長)、野原安(17)、栗山喬之(教授)、鈴木勝(元医師会長)、高木達(25)、西川義明(34)、後列左より黒野隆(59)、中村宏(43)、関谷信平(38)、原久弥(34)、堀川工(54)、宮澤裕(41)、青木謙(36)
(原久弥・昭34卒・記)

新カリキュラムについて

平成三年二月大学設置審議会の答申を受けて、設置基準の改正(大綱化)が行なわれ、本学でも今年度から教養部が廃止され、六年一貫教育が行なわれることとなりました。一般教養科目の再編成が行なわれ従来の教養科目は語学、情報処理、スポーツ健康科学からなる共通基礎科目と総合科目、セミナー、個別科目から自由に選択できる普通科目とで構成されています。一方、専門基礎科目には分子細胞生物学等新しい科目も加わり、専門科目も全て単位性となりました。

論を履修していない学生は、臨床実習に参加できないというルールも定められました。この新しいカリキュラムは、学年進行にしたがって実行されて行くために、二年生以上では大きな変化はないのですが、新入生から卒業までの全責任を医学部で負うこととなりますから教員は色々な場面で異なる年度の学生と接する機会が多くなり、教育に対する意識も変化することと思われまます。事実、入学試験はもとより、化学、物理学、生命科学(従来の生物学)、情報処理、総合科目、学部開放科目などには、医学部の教員が積極的に関わっていただいております。

この度の制度改革が、教育の質の改善に繋がるためには、これに関わる教員、学生および職員の努力が必要なこととは言ってもありませんが、大学内外の方々の暖かいご理解とご支援をお願い致します。

教務委員長 千葉胤道

(解剖学第三講座教授)

あのはな同窓会

常任理事会議事録

平成五年度第三回

日時：平成6年2月16日

場所：同窓会館一階会議室

議題 1. 役員改選準備

2. 学内理事改選について、岡本常任理事の後任に法医学

木内政寛教授が推薦された。3. 平成6年度総会。4. 平成6年度常任理事会の日程。5. 会則改正、6. その他、①会費の納入時期や納入方法を検討することとした。また、会計については公認会計士に依託し適正に統一して処理することが望ましいとの意見が出された。②

員定数は上限を定めたものであり、定数未満でもよい。②投票の結果以外も必要な人材は常任理事会が判断し、役員に任じる。③各卒業学年毎になるべく均等に役員を選出する。④現職教授の理事就任は別途考慮する。⑤前・元・名誉教授は名誉会員となる。⑥各支部別の常任理事人数については、学内(9名)、東京(8名)、千葉およびその他の府県(7名)程度とする。常任理事の選出は原則として各支部の会長に任せる。千葉については、これまで千葉あのはな会は形態として存在していなかったため、渡辺副会長、越川常任理事に一任して決定することとした。⑦理事、常任理事については、委嘱状と承諾書を取り交わして確認することとした。⑧末尾会長より退任の希望があり、後任会長については現会長、副会長に一任することとした。⑨内田会計監事より退任の希望があり、後任監事は進藤理事(または西沢理事)を推薦することとした。2. 平成6年度総会(本紙一面に掲載)。3. 会則改正について、討議の結果以下のとおりすることとした。①改正案5条の会員の資格定義、および評議員数を130名以内とする件、第6条の削除、第41条の会費値上げの件を了承する。②現行会則第5章(本部に関する項目)を削除し、第2条に、「専任の事務員をおく」を追加する。第

10、11条等の「本部」を「本部」とする。③第41条3.「入会金および会費は常任理事会の議決によって変更し、総会において承認をうることとする」とする。④第43条1(四)の会員の親睦に関して、註または付則として、以下のとおり記載することとする。本会各支部と大学との緊密な連携を保ち、また、会員相互の親睦をはかるため、原則として年3回の親睦会(四金会)を開催する。⑤以上について会則の新旧対照表を各常任理事に送付し、確認および再度意見を聴取し、会則改正案を総会に提案する。4. 平成5年度決算および平成6年度予算案。会費について、現行会費は昭和54年以降据え置かれており、諸般の事情により値上げしたい旨説明があり(入金金二、〇〇〇円、会費年三、〇〇〇円)了承された。6. 学術奨励賞について次期常任理事会において具体案を検討することとした。

の司会で開会され、叙勲者、昇任者の紹介、挨拶があった。本会への出席者も次第に多くなり、同窓会および大学の発展を願いつつ和やかな歓談の一時を過ごした。

おくやみ

津田 修二氏 (大12)
丹波 一郎氏 (昭10)
勝見 次郎氏 (昭11)
高山 晃氏 (昭14)
勝田 恒夫氏 (昭14)
中川 喜幹氏 (昭19)
花輪 紀夫氏 (昭20)
矢野 光二氏 (昭24)
吉田 清彦氏 (専24)
斎藤 佐文氏 (専25)
石川 鉄男氏 (専26)
和田 八助氏 (昭10)

編集後記

同窓会報の発行は年三回(春、秋、冬)を目標としております。本号より、活字を大きくして一行を13字(従来は15字)にし、読み易くなるようにしました。字くばりやレイアウトにまだ至らない点がありますが、改善して行くつもりです。

医学部本館前広場の改修工事が終了、美観と排水性が向上しました。一度見て下さい。クラス会や各地あのはな会だよりの投稿をお待ちしております。なお人名はフルネームにてお願いします。

(嶋田 裕)

平成六年度第一回

日時：平成6年4月27日

場所：同窓会館一階会議室

議題 1. 役員改選準備について、全会員による投票結果に基づき役員改選を行うこととした。その際、以下の事項を考慮することとした。①役

員をおく」を追加する。第10、11条等の「本部」を「本部」とする。③第41条3.「入会金および会費は常任理事会の議決によって変更し、総会において承認をうることとする」とする。④第43条1(四)の会員の親睦に関して、註または付則として、以下のとおり記載することとする。本会各支部と大学との緊密な連携を保ち、また、会員相互の親睦をはかるため、原則として年3回の親睦会(四金会)を開催する。⑤以上について会則の新旧対照表を各常任理事に送付し、確認および再度意見を聴取し、会則改正案を総会に提案する。4. 平成5年度決算および平成6年度予算案。会費について、現行会費は昭和54年以降据え置かれており、諸般の事情により値上げしたい旨説明があり(入金金二、〇〇〇円、会費年三、〇〇〇円)了承された。6. 学術奨励賞について次期常任理事会において具体案を検討することとした。

四金会(平成五年度第三回)

日時：平成6年2月16日

場所：同窓会館一階会議室

出席者：20名、貫洞副会長の司会で定刻に開催され、近藤医学部長の挨拶があり、和やかに歓談の一時を過ごした。

四金会(平成六年度第一回)

日時：平成6年4月27日

場所：同窓会館一階会議室

出席者：31名、椎名常任理事